

吉里吉里小学校 ネット授業および教員研修（てこのはたらき）

日時： 2013年10月25日

場所： お茶の水女子大学と大槌町立吉里吉里小学校

参加者： 小学校6年生23名、教員8名

単元： てこのはたらき

講師： 貞光 千春（お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 特任准教授）

実施方法：

当センターで開発した狭隘教材「てこ実験器」を、各班分送付し、事前に担任教員と打ち合わせを行い、てこのつり合いの授業を、テレビ電話機能を使って行った。授業終了後、担任以外の教員に向けても同じ教材を用いて教員向け研修を行った。

実施結果：

重いものをてこを使って持ち上げる、実感を伴った体験と、てこ実験器のつながりを意識しにくいことは、よく問題にされている。今回はこのつながりの部分を手作りのてこ実験器を組み立てるところから、児童が行い実験を行った。予め座席表をいただいて、名前を呼び掛けて質問したり、実験結果を発表してもらったので、双方向のやり取りを行うことができた。

この様子はNHKニュースWEB（お茶大側で取材）と岩手日報（吉里吉里小学校側で取材）に掲載された。

アンケート結果（感想）：

- ・初めてiPadを使った授業をしてみて、すごく楽しかったです。分かりやすいし、おもしろかったです。（児童）
- ・はじめてテレビでのかいわだったのですごくびっくりしました。（児童）
- ・子どもたちが興味をもちそうな教材での実験だったので、楽しく学習できると思った。組み立ての説明等はもしかしたら教室でもできるので、専門的なことや深めたいこと、気づかせたいことなどにしぼって先生からお話しいただいたり、見せていただいたりすると、有効にコミュニケーションの時間がとれるのではないかと思います。楽しい内容、実感を伴う活動で勉強になりました。ありがとうございました。（教員）
- ・通信だと話がとぎれてしまうこともあったので、互いに話し合っって授業することの難しさを感じました。授業の内容はとてもおもしろく、児童が予想をたてながら、授業に臨むことのできるものだと思います。一人ひとりが進んで考えられる授業でとてもよかったです。（教員）

